

お裾分け

齊藤 壹

松原栄師が北関東教区主教に選ばれ、聖公会生野センター運営委員長の後任をお引き受けすることとなった今、限られた紙面で皆様にセンターの働きを“お裾分け”するものがあるとするなら、私の働く二つの教会では、こんなかたちで結実しつつあることをお伝えすることでしょう。

一人の青年がおりました。彼は精神障害を持ちながら、医師や家族などと連携を取りながら地域の中で生き、教会に連なり、最近韓国語教室にも来始め、自分の居場所を見出しています。聖公会生野センターが“NPO-HIT（東成区、生野区、天王寺区の頭文字）”を始めとする精神障害者自立支援活動に関わっているのを知ったことがきっかけでした。“聖公会”の名は、生野界限では皆様の想像以上に知られています。

こみち寄席は70回を迎えました。近所に住む一人の常連さんがおりました。聞けばカトリック信徒で聖公会関係学校の教員でした。やがて、歩いて行ける教会で信仰生活を続けたいと転会してこられ、オルガニストを務めてくださり、聖ガブリエル教会には、今は無くてはならぬ存在です。こ

みち寄席は保育園の一室での開催のため、開演はどうしても午後7時となり、本当はおいでになりたいだろう高齢者が出にく



い時間にしか出来ないのが玉に瑕で、参加者が少ないのはもったいない話です。このように、限られた空間と制約の中で、何とかやり繰りしているのが現状です。お覚えください。

昨年は筑紫哲也さんらを迎えて10周年のイベントが行われました。町のプレイガイドで券を買って参加した在日の一人の筑紫ファンが、プログラムに掲載されていた聖公会の教会名と住所をたよりに来られ、今は聖書学習会メンバーで定着しています。

フィリピン人女性と日本人男性との離婚問題や子どもの養育をめぐる関わりの中で、保育園がお預かりした子どもも大きくなり、母娘らが教会に連なっています。

このように、センターの働きを通して足元では様々な出会いが生まれています。

12年目を迎えた今年、これも空間的制約から夜だけしか出来なかった絵画教室を昼間にも開催できるよう、また母語で安心して過ごせるための在日高齢者食事サービス活動のため、近所の民家を借りて新しい働きを展開することとなりました。皆様のお支えを感謝しつつ、更なる熱き祈りと、強力なご支援をお願いするものです。

(さいとう・はじめ 聖公会生野センター運営委員長、
聖ガブリエル教会・大阪城南キリスト教会牧師)

もくじ

1. お裾分け
2. 時のしるし あれほどの目に遭っても……
3. 多民族・多文化共生のすすめ⑩
コリアNGOセンターで行こう！
4. 詩 「国籍」
5. こんな本あります
本から「在日コリアン」を考える⑩
6. 韓国市民の眼⑩ 進歩を選ぶ
- 7~9. 障害者は今 地域の中で
「障害者の自立生活」とエポックの取り組み
センターの絵画教室から
「僕たちの未来」
10. 韓国語の勉強はじめてみませんか
冬ソナにハマって
11. ご支援ありがとうございます
12. 生野のまちかど／読者の声

イラクでの拘束事件は、結果的に今の日本という国がどのような状態にあるのかを明らかにさせることになった。カメラマンの郡山総一郎さん、劣化ウラン弾被害に心を痛め活動していた18歳の今井紀行さん、そして、拠り所のない子どもたちに誠心誠意寄り添う働きをされていた高遠菜穂子さんが不当に拘束された。自衛隊を三日以内に撤退させなければ彼らを殺害すると宣告されたにも関わらず、政府はわずか数時間後に撤退はないと言い放った。拘束中のこうした政府の姿勢はある程度予想できたが、驚いたのは事件が解決した後の、三人やその家族に対するすさまじいバッシングであった。このバッシングが、日本政府の主導のもとにある意味計画的に為され、そしてそれにマスメディアも無批判に乗っかるころに、この国の非常に危険な状況がある。

小泉首相も福田官房長官も、日本政府が「寝食を忘れて」救出にあたったから解放されたと言った。それでもイラクの人を愛している、イラクでの働きを続けたいと解放後に語った高遠さんたちは、その「恩」を分かっているという訳である。米国の言いなりになって自衛隊という軍隊を派兵している日本政府が24時間体制で何をしようとも三人の解放にはつながらない。三人が解放されたのは、あくまでも「彼らが米国と関係なく、イラクの民衆のために尽くしていた人たちであることが分かったから」(クバイシ師)である。戦争状態で退避勧告を出していたところに勝手に行ったから「自業自得」、「自己責任」だと言う。しかし、私たちは小泉首相自身が自衛隊派遣の際の理屈として公言したことを忘れてはならない。彼はあの時こう言っていたのだ。「イラクは安全だ。民間人なら行っても良くて、自衛隊が行ってはいけないという理由はない」。そもそも、三人が危険な状況に陥ったのは、そのような理由で日本政府が軍隊を送ったからである。イラクの民衆たちが、自衛隊派遣を歓迎などしていないことも今回明白になった。今回の救出に要した経費を請求せよとの世論形成も誘導された。三人の自業自得のために国民の血税を無駄に使った。自己責任で自腹を切れと言う。冗談を言ってはならない。「税金」とはこのような時のために払っているのだ。税金の無駄遣いというのは、年金の払い方も知らない政治家の給料や、サマワの要塞の中で引き籠るために何十億と費やす自衛隊派遣経費のこ

あれほどの目に遭っても

西原廉太

とを言うのである。

しかし、一連の政府首脳発言で最も興味深かったのは、小泉首相の「あれほどの目に遭ってもまだ残りたいと言うのか」という言葉であった。民衆と民衆の繋がりというものを知らない彼には、高遠さんが「あれほどの目に遭って」も、なぜイラクに残りたいと言うのかを到底理解できないであろう。高遠さんはイラクからご自分のホームページの掲示板にさまざまな思いを伝えておられた。2月1日付けで書かれたメッセージはこのようなものだった。「私は、今イラクで、今まで生きてきて一番の『幸せ』と『平和』を感じています。それは、ここにいて自分の家族を思い、家族の大切さを感じ、子どもたちを通して、自分自身がどれだけ父や母を傷つけたかを身にしみることができ、そして、その思いを私の体を通して、父母のいない彼らに伝えることができているからです。イラクに心から感謝します。私の中でイラクは『平和』で『愛』に満ちています。平和とは概念ではなく、一人ひとりが感じる愛で、そうやっていくしか、私の愛する人すべての平和ははじまらないでしょう。私は人を愛するだけです。」また、2月11日付けではこう書かれていた。「夜、一人になって布団に入ると、一日のことを思い返してうれしくなり、そして悲しくなり…。でも、なぜ私がここにいるのかということ、しみじみと感じ、感謝の念でいっぱいになると、涙がとまらなくなります。みんなが大好きで、私が彼らに守られているのだということ、彼らが私に私のことを教えてくれているのだという事実を感じています。場所は関係なく、地球人として私は彼らとつながっていた…。そう思わずにはいられません。そのくらい、私のイラクは愛しいものです。『ぼくのことを忘れないで』と指輪をくれた男の子が二人。かわいいでしょ!？」

高遠さんが触れようとされていたのは、イエスが触れた民衆の傷と通ずる。打ちめされた者、絶望の淵にある者、痛み、苦しみにある者、疲れた者の傷に「直接に」触れること。それがイエスのミニストリーであった。彼女が触れたイラクの子どもたちの傷を、彼女のその手が記憶し続ける限り、彼女はイラクに留まりたいと思うであろう。そのことの意味を首相は決して分かりはしないのである。

(にしはら・れんた 中部教区司祭、立教大学教員)

コリアNGOセンターで行こう!

金光敏

ゴールデンウィークを迎え、民族学級の開講式が各地の学校で行われ、今年度も民族学級の活動が始まりました。

さてウルリムの読者の皆様にご報告があります。実は、私が所属してきた民族教育文化センターがこの度、在日韓国民主人権協議会、そしてワンコリアフェスティバル実行委員会と統合し、「コリアNGOセンター」として活動することとなりました。専門領域のちがう団体が、互いに相互乗り入れを図りながら、これまで取り組んできた民族教育の制度保障、多民族・多文化共生社会の実現、そして統一や東アジアの平和についてより広く発信していくことを目指しています。在日の人権・民族運動が、分散分裂を繰り返してきた歴史の中で、専門領域のちがう団体が互いにつながり、統合し、ひとつの屋台骨を生み出したのは、在日史の中でも初めてのケースではないかと思えます。今後の活動に皆様のご支援とご協力をお願いするものです。

もう少し詳しく書きます。民族学級の制度保障運動は少なくない成果を挙げてきました。それは民族学級設置数を見ても明らかで、ここ10年で飛躍的に増えています。何よりも大きなことは、大阪の教育現場で民族教育そのものが否定されることはほぼなくなり、教育行政も、そうした観点を社会的コンセンサスと認識し、一定考慮するようになってきたことでしょう。この運動に携わってきたすべての人々の闘いの賜物です。

一方、そうした社会的コンセンサスの定着とは裏腹に、それらがすぐに制度化につながっていないというジレンマも抱えています。どうして認識が進んだのに制度化や施策化に結びついていないのか。様々な観点からの考察が必要ですが、ここでは大きな要因として行財政の逼迫を挙げておきます。すなわち、財政赤字が民族学級の制度保障

を阻害しているという問題です。一方、財政に余裕のあった時代は、逆に社会的認知が希薄でした。

この行財政逼迫問題は、制度化の単なる停滞のみならず、今年度から民族教育予算を大幅に削減した市もありました。

こうした状況をそのまま放置しておく、より深刻化することは明らかです。ますます子どもたちの教育環境は悪化することでしょう。厳しく指摘しますが、わが同胞たち、そしてすべての外国人住民が、常に行政の予算措置の対象から排除されているのは、一重に行政の無関心によるものですし、日本政府の無施策によるものです。いや本質的には有権者の無知によるものです。

私は、日本社会には「構造改革」が必要だと思えます。でも小泉さんの言う「構造改革」ではありません。私の考える構造改革とは、日本に暮らす外国人住民が固有の文化や習慣が保障され、公平公正に生きられる社会づくりです。公共事業と軍事費、行政の無駄使いを減らして、民族学級や民族学校への制度保障(在日外国人障害者や高齢者への年金支給や戦後補償)に優先的に予算をまわすべきです。そのためには、様々にすべきことがあります。言わば、民族教育の制度保障運動をより幅広い社会運動として位置づける必要があるのです。この間相互に信頼を深めてきた在日韓国民主人権協議会、ワンコリアフェスティバル実行委員会と協働することで、多角的に子どもたちの生活環境をよくしたいと考えました。今後とも「コリアNGOセンター」の活動にご注目いただき、「構造改革なくして共生なし」(私が勝手に使っているスローガンですが)の視点で取り組んでいきたいと思えます。ぜひよろしく願いいたします。

(きむ・くあんみん コリアNGOセンター事務局長/教育コーディネーター)

本から「在日コリアン」を考える ⑬

高二三

3万ともいわれる島民が浮かばれない、という気持ち強く潜んでいるからかもしれない。

さて今年の濟州島四・三事件56周年（大統領謝罪元年）の集いを私なりに振り返ってみたい。盧武鉉大統領が直接手を下したことはないにしても、国家権力者が謝罪したことが明確に在日社会に知らされ、無辜の民の恨（ハン）を解くという意味でも内実を得たものとなったと思う。今までは恨を解かねばならないと何回も言ってきた（にすぎなかった）のだから大きな違いだ。

そして、東京と大阪で連動して集会がもてたということも意義の一つとしてあげることができよう。4月24日（土）、東京では600人の参加で、4月27日（火）、大阪では1,100人の参加で大盛況であった。

日本では40周年（1988年）から四・三事件の集会がもたれたが、なぜか一度として同じ出し物で連動して行われたことがなかった。大阪は本国の濟州島より人間関係や政治関係が複雑で事挙げをしようとするといろいろな困難がつきまとうのは目に見えている。その目に見える困難を承知の上で今回の大阪集会を成功裏に導いた関係者の皆さん本当にご苦労さま。特に連絡所となった聖公会生野センターの皆様、ありがとうございました。

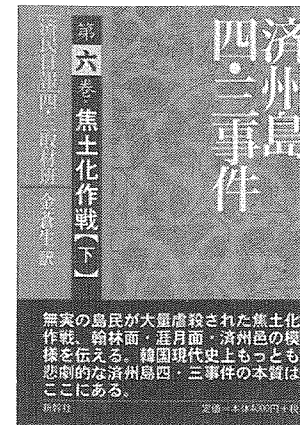
年寄りみたいな言い方になるかもしれないが、この苦労は必ず報われる。人と人との出会いがあり、何より、集会に参加された方々の喜びや涙があったのではないか。グリコのおまけみたいで著者や訳者には申し訳ないが、この集会に合わせて『濟州島四・三事件 第六巻』を作った。全島を席卷した焦土作戦の下巻なので、これで悲惨な四・三事件の直接的な被害の全貌を知ることができる。また本国韓国でも、第五巻までしか刊行されていないので、第六巻は日本のみで書籍として刊行したことになる。四・三事件を知る決定版なので、ぜひ図書館などにリクエストしてお読みいただけたらと思う。

(こ・いーさむ 新幹社代表)

『濟州島四・三事件 第六巻 焦土化作戦(下)』は聖公会生野センターで取り扱っています。

TEL 06-6754-4356 FAX 06-6754-4357
e-mail: ikuno@nssk.org

濟州島四・三事件 第六巻



焦土化作戦(下)

済民日報「四・三」取材

班編

金蒼生訳

定価4000円+税

新幹社

今年は1948年4月3日から起きた濟州島四・三事件から56年目の年である。

いままで40周年の1988年、45周年の1993年、50周年の1998年、55周年の2003年（昨年）と節目の年に大きな行事を行ってきた。ところが今年が56周年なのに大きな行事となったのは、他ならぬ「大統領謝罪元年」だからである。

1948年に起きた濟州島四・三事件は大韓民国の成立と密接に関わっている。大韓民国という国家を形成させるために2万～3万人の濟州島民が犠牲（いけにえ）になったと言っても過言ではない。だから長い間、韓国で（在日社会でも）語ることはばかされてきた。

ところが、韓国内での民主主義の成長と共に政府レベルの濟州島四・三事件真相調査団ができ、その調査団の報告書をもとに、現職大統領が濟州島へ赴き、国家権力の実権者として正式に謝罪したのである。

私は、率直に言って在日朝鮮人として韓国（政府）に対して初めて「誇り」を感じた。私にとって韓国は愛憎ないまぜの地である。しかし、おおよそはイヤなことばかりで、胸を張って祖国を語ることは少なかった。どんなに経済が成長しようが、技術が進歩しようが、それらでは癒しようのないものだった。

しかし、国家の成立期に歴史をさかのぼって自己反省する国がどこにあるだろう。日本やアメリカでさえなしえない事である。民主主義の真の定着化として世界に誇れる快挙である。

このような位置づけでもしないと、私のなかに濟州島四・三事件で罪なく殺されていった2万とも

国籍

丁章

日本国家の

外国人登録証に

地域名「朝鮮籍」と刻まれている

わたしの国籍は

無国籍

のまま

三千里半島統一国家を

待ち望んでいる

わたしは

日本国籍を取らず

朝鮮民主主義人民共和国籍を取らず

大韓民国籍を取らず

に在日するサラム

あなたが日本国籍を取ること

あなたが共和国籍を取ること

あなたが大韓国籍を取ること

あなたがサラムであるならば

誰にも咎められないあなたの選択

なのにあな

日本国籍を取れば

共和国籍を取れば

大韓国籍を取れば

咎められ いがみ合うのは

ドンナドウリカ

無国籍を選択している

わたしは

日本国民ではないけれど

だからといって

共和国籍でも

大韓国民でも

ないのだから

共和国籍でなければ

大韓国民でも

日本国民でも

なく

大韓国民でも

共和国籍でも

日本国民でもない

この在日サラム

を

大韓政府は北韓人だと斥け

共和国政府は南朝鮮人だと斥け

三千里半島の地を踏ませないのは

ドンナドウリカ

三八線南北国家の両領土が

サラムの地へと戻るまで

密封したわたしの国籍は

心の国へ

投函したきり

返事なし

三八線：朝鮮語でサムバルソンと

発音し分断線の象徴的な

呼び方になっている

詩集『民族と人間とサラム』より

丁章 (ちょん・ちゃん)

1968年、京都市にて出生
大阪外国語大学Ⅱ部中国語学科卒業
現在、大阪府東大阪市在住

著書

詩集『民族と人間とサラム』(新幹社)
詩集『マウムソリ -心の声-』(新幹社)

『民族と人間とサラム』と『マウムソリ -心の声-』は聖公会生野センターで取り扱っています。

進歩を選ぶ

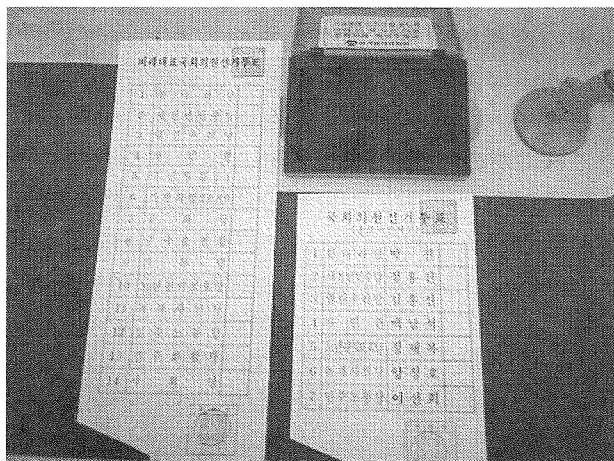
姜 惠 楨

4月15日、韓国の国会議員総選挙が行われた。選挙結果には、専門家たちが「韓国政治史に残る事件」と評したように、社会の変化を実感させるいくつもの要因が現れた。

与党「開かれたウリ党」が過半数議席を獲得したことで、改革的勢力が初めて議会の多数派を占めるようになったこと、韓国社会で存在を許されなかった進歩政党の脈を継ぐ「民主労働党」が、初の議会進出と同時に第3党の地位を確保したことの意味は大きい。

また、政党構図の変化だけでなく、人的構成面でも国会議員初当選者が全当選者の63%にも達した。その多くには30～40代の若い層、女性、改革・進歩勢力などが含まれており、検証済みの腐敗人物よりは未検証であっても可能性にかけるといって、有権者の期待が示された。「変革」という言葉を使うだけで「左傾容共勢力」とレッテル貼りされた時代への記憶からすると、韓国の人々はいつの間に変化を恐れなくなったのだろうという感が否めない。

今回の選挙のいくつもの争点の中で、最も大きく注目されたのは、やはり大統領弾劾をめぐる是々非々であっただろう。改革勢力の支持を基盤に当選していた大統領は、この一年間、巨大保守野党の非難攻撃にさらされ、少数与党による改革の足踏みや未熟な政治に対しては既存支持層からも強い批判があった。そんな背景から、決議に賛成した野党は、どうやら大統領弾劾が一年間の失



投票用紙（左：政党比例代表選出用、右：地域選挙区議員選出用）

政に対する「懲罰」として国民的説得力を持つものだと信じていたようだ。

だが、失政を徹底的に批判することと失政の主体を目の前から消すことの間には、天と地、民主主義とファシズムほどの開きがあるというのが市民的感觉ではなかったか。その感覚とは、数多くの犠牲と引き換えに勝ち取られた、韓国民主主義のこれまでの到達点である。また、自らの巨大な不正・腐敗には寛大な巨大野党同盟による弾劾可決は、数や権力さえあれば全てが容認され弱き者が徹底的に踏みこまれていた、独裁政治の悪夢を蘇らせた。暗黒の時代をくぐり抜けた韓国社会の人々が、自ら勝ち取った民主主義にどれだけ自覚的であるかを、彼らはおそらく見ようとしなかったのだろう。或いは、変化を感知する能力に欠けていたとしか思えない。その結果、弾劾可決の翌日から弾劾推進政党は支持率が急落し、その主役となった人物は今回の選挙でほぼ落選した。

選挙当日、投票終了直後に報じられた出口調査結果により、大まかな開票結果は早々と報じられていた中で、深夜1時過ぎに時代の移行方向を象徴する当確報道があった。民主労働党の比例代表順位8番、魯會燦（ノ・フェチャン）候補の当選である。今回の選挙で新たに導入された支持政党投票制に基づき、民主労働党への投票数が確定したことによる結果だが、魯氏は今回の選挙戦で最も高い大衆的人気を集めた人物だったことが興味深い。同時にこれは、正統保守を自称する自由民主連合の比例代表1番、金鐘必（キム・ジョンピル）氏の落馬確定の知らせでもあった。独裁政治家の右腕として政界に登場し、日韓政経癒着、国内野合政治の裏幕として約40年間を生き延びてきた大物政治家が、初めての進歩政党所属候補に敗れる…。こんなドラマを見ていると、様々な紆余曲折があろうとも、社会は二歩下がって三歩進むように前進を遂げるのだろうと確信せずにはいられない。

個人の一票が社会を変えた。そしていま、韓国社会の変化の矢印は、進歩を指している。

（かん・へじょん アジアの平和と歴史教育連帯
〈教科書運動本部〉国際協力委員長）

「障害者の自立生活」とエポックの取り組み

下村 有吾

今までの「自立生活」の考えが、「サービスを受ける側」とされてきた障害当事者は、施設や家族のもとで保護や管理の対象であり、また、身辺自立や経済自立、障害の克服といったことが目的とされていました。

それが、障害当事者が適切な支援、環境、情報を利用できるように整備され、社会参加していき、その様々な関係の中で、自分の意思で選択し、決定すること、介護等の支援を利用して選択、決定すること、が「自立生活」と発想が転換されてきました。

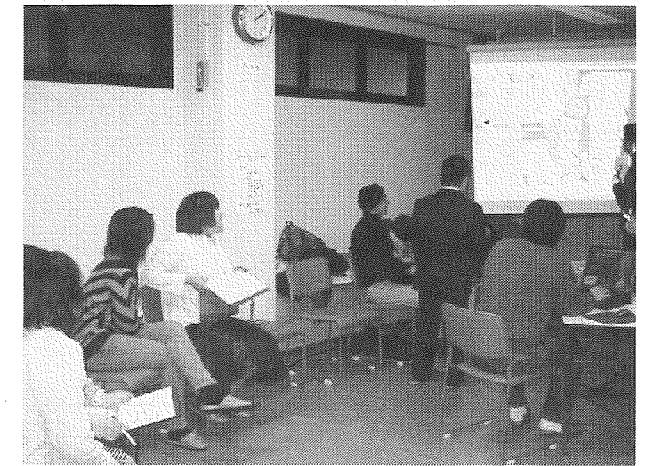
そういった流れから自立生活センターが誕生しました。また、市町村障害者生活支援事業として制度化され、それによってピア・カウンセラーの雇用が可能になりました。

自立生活センターの活動の理念は、障害者主導の運営（意思決定機関の構成員の過半数が障害当事者、代表や事務局長が障害当事者）と地域での自立生活のためのサービス提供、権利擁護等があります。それは、障害当事者が「サービスを提供する側」へと、既存の価値観を変える動きでした。

自立支援センター・エポックでは、そうした自立生活センターの活動の理念に添って、ピア・カウンセリング、ILP等に取り組んでいます。

ピア・カウンセリングについては、「障害者だから…」といった自信喪失など、否定的に見られることから、自分を好きになり、障害を肯定的に捉えるという考え方で、同じ立場の障害当事者がカウンセリングを行います。

また、ILPでは、社会で経験をしていくことや物事を実行していくことでの獲得が多くあると捉えます。外へ出たの突然の出来事、そして、それらの関係性を継続することなど、社会参加で獲得されるものは、閉鎖的空間ではなく、社会参加



ILP活動の様子

にあります。そこで、社会参加による様々な関係の中での自立生活のために、すでに自立生活をしている障害当事者がロールモデルとしての役割を果たし、様々な経験をしていくILPの提供を行っています。自立支援センター・エポックでは、料理や外出、さらには、グループホーム体験入居のプログラムを提供し、主体的な生活へ向かう契機としています。しかし、それらのプログラムに参加しても、思ったように上手くいかないことが多く、否定的になってしまいがちです。そこでもピア・カウンセリングと並行的に進められます。その二つを並行的に進め、より詳細で個人的なプログラムを作成し、提供していきます。

さらに、自立支援センター・エポックでの取り組みとして、上記のILPを作成するプロジェクトチームがあり、そこでは、障害当事者を中心に支援者、介護者など多面的に一つのプログラムの作成を目指しています。

（しもむら・ゆうご 自立支援センター・エポック スタッフ）

ILP=Independent Living Program 自立生活プログラムの略

センターの絵画教室から

江之口 るみ

聖公会生野センター絵画教室へ3人兄妹で通っています。兄は、ダウン症で現在高2、妹2人は中1と小5です。教室へ通うようになったのは4年前に息子と同じ学校のお母さんの紹介です。地域にも友だちがなく、学校以外の時間を友だちと絵を描くという楽しい時を過ごすことが親子共々に嬉しく思い兄妹で通うこととなりました。兄にはもちろん妹二人にもよい刺激になっていると思います。

誰にでも（障害者・健常者）絵というものは、自由に好きなように自分が思ったまま描け、それに先生たちがアドバイスしてくださり自分たちを絵をそれぞれに描いています。最初の頃は絵を描くというより遊びに行っているようなものでした。先生から息子に油絵を描かせて見るといわれた時は正直上手にかけものなのかと思っていました。しかし、先生に配色の作り方や筆の使い方などいろいろと教えていただき、今までとはちがう描き

方で、1枚を仕上げるのに何ヶ月もかかりますが、途中でいやにもならず頑張っ仕上げることができるようになりました。ずいぶん根気や集中力が身に付いたと思います。そんな姿を妹たちも見てそれぞれ頑張っています。

教室では、毎年クリンもだん絵画展があり、子どもたちの作品を展示しています。この絵画展も教室みんなの大きな自信となっていると思います。たくさんの方々に自分たちが頑張っ描いた絵を見てもらい「色づかいが明るいね」とか「細かいところまでよく描けているね」とか言っていただく場があると言うことは、私たち親も嬉しく励みになります。

先生やボランティアの方々、またお母さん方もとっても明るく朗らかなので長く絵画教室へ通えると思います。

夢は大きく、子どもたちがアーティストになれたらなと思っています。（えのくち・るみ）

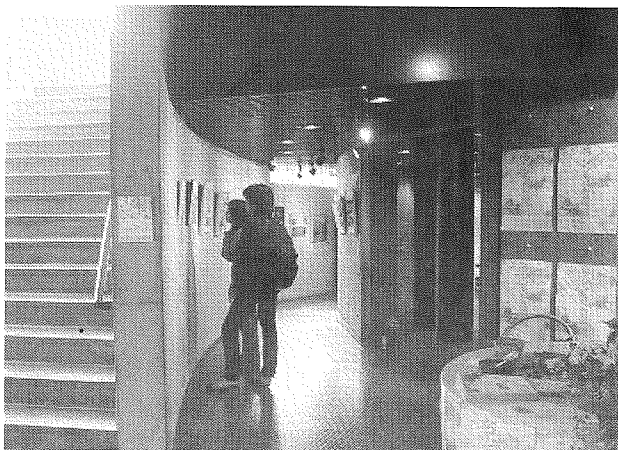
山根 博子

した。年月を重ねだんだんと絵を描く楽しみがわかるようになっていきました。

この教室は生徒一人一人の持ち味を引き出してくれるやり方で、人のまねをすることなく、自分のペースで自分なりの絵を描きます。

娘の絵は1枚を仕上げるのにすごい時間がかかります。一筆一筆丹念に丹念に色を重ねていきます。その表情はとても真剣です。こうしてできあがった作品はとても重厚で見ると人を魅了させる力を持っていると思います。

絵画教室に通い出して10年あまり、4度の個展と数回のグループ展を開催しました。そのたびにギャラリーに通い、自分の描いた絵を多くの人たちが見に来てくれる姿を見て快感を覚え、また励みにもなって、自分自身の力になっていると思います。これからも自分にしか描けない絵をじっくりと納得いくまで描き続けていってほしいと思います。（やまね・ひろこ）



僕たちの未来

「塚本君写真もくれる？」

「写真は遠慮させて」

数年前ウルリムに原稿を書いてもらったときの私と彼の会話だ。精神障害当事者として活動していた彼はやはり顔を出すことを躊躇した。今、堂々と生きている。精神障害者として。彼が詩を書き、曲を作り、全国を行脚している。自分たちのことを語るために。この詩は僕がとても好きな詩だ。「肩を張らずに、一緒に行こうよ」という彼のメッセージがある。これからは生野の財産の一人として塚本さんには生きていてほしい。

（呉光現 お・くあんひょん）



僕たちの未来

作詞・作曲：塚本正治

僕たちは たくさんの富を 得ているつもりでいても
もしかしたら 大切なもの 失くしているかも知れない
そんな事を告げた 君はこの世にいない サヨナラも告げずに君は どこにゆくのか

僕たちの未来は 光と影 帯びながら 動きだす
失敗と成功を くりかえし 真夏の裸足児（はだしご）のように 泣きながら

何かの目的で 集い合うのではなく
たあいのない日常を 楽しみたかった
世界はあまりに 急ぎすぎている 弱い者の肉を食らい 誇らしげに

僕たちの未来は 光と影 帯びながら 動きだす
失敗と成功を くりかえし 真夏の裸足児のように 泣きながら

宗教や政治や思想の違いや
生活や習慣や文化の違いや
体や心に少しの違いがあっても つたえたい熱い思いがあるのならば

僕たちの未来は 光と影 帯びながら 動きだす
失敗と成功を くりかえし 真夏の裸足児のように 泣きながら

戦争への秒読みがはじめられた時 終わりを告げた時生まれる命（いのち）もある

僕たちの未来は 光と影 帯びながら 動きだす
失敗と成功を くりかえし 真夏の裸足児のように 泣きながら

アルバム 「僕たちの未来」より

冬ソナにハマって

林 哲子



初めてビデオを観たのは2月。1話はタッカルビで聞きなれた春川の美しい家並み、ぎゅうぎゅう詰めのバスから始まる。わお韓国や!と興味をそそられる、美しく哀切な音楽が随所で流れる。高校生の二人がデートをする並木道や雪の湖畔もとても 아름답다! (アルムダッタ:美しい) 一気に20話まで観てしまった。

数日後ふとレンタル店の棚に目をやると、何と一週間レンタルに変わっていた。ゆっくりと見たい衝動に駆られ、再び借りて見始めたが、同じのをすぐ又借りることが気恥ずかしく店員の目になって、もう3度目は借りられないとばかり繰り返し観た。年甲斐も無く恋愛ドラマに嵌ってる事が恥ずかしくて。(この時は日本に6万人のペ・ヨンジュン ファンクラブがあり、殆どおばさんである事を知らなかった。韓国でも撮影場所に押しかけているのは아줌마(アジュムマ:おばさん)たちだとあとで知って安心、納得。)

あんなにも強く深く愛しているのに別れなければならないミニョン=チュンサンを、おばさんとしては可哀想でたまらない。ああ、でもあんなにも愛されたら素敵、うっとり。

19話だったか、別れの場面のヒロイン、ユジン

が可愛いこと。女性心理として二人の男性からあんなに愛される設定なんて妬けて仕方ないはずなのに女優チェ・ジウは特別だと感心。冬ソナが女性に人気がある理由の一つだと思った。来日したチェ・ジウをテレビで見たが美しかったこと!

次は二人の声が聞きたくなり、韓国ドラマレンタル店を探し今里新地まで行った。なんと日本版には無かった場面があった! 山で遭難したユジンをチュンサンが発見した後、仲直りするために何か言っている。でも全然わからない。シナリオ本もカットしている。どうしても知りたい!とあせるのだが、歯が立たない。韓国語を不勉強な自分がかうらめしく情けなかった。

映画本を生まれて初めて買った。韓流にのみこまれた。レンタル店に通いつめ韓国ドラマや映画を次々見た。

「カル」と「動物園の隣りの美術館」のシム・ウナは別人のようでとても魅力的、「猟奇的な彼女」が面白い。映画館で「殺人の追憶」「ホテルピーナス」も観た。初めてDVDも買った(ホテリアー)。アホチャウと娘が言うに決まってるので内緒にしている。「スキャンダル」の前売り券を探し歩いた。ペ・ヨンジュンの美しく優しい笑顔に癒されたいおばさんとしては観たくない心境でもある。

(はやし・てつこ)

聖公会生野センター韓国語教室

毎週火曜日 19:00-20:30

入門・初級・中級・研究班

全く初めての方から、
留学後のレベルアップまで

あなたも
冬のソナタの あのセリフを

ご支援くださった方々のお名前

(2003年度: 2003年4月1日~2004年3月31日 50音順・敬称略)

いつも聖公会生野センターの活動をお祈りくださりお支えくださりありがとうございます。本来でしたらご支援くださったすべての方々のお名前を記し感謝申し上げるべきところですが、教会・グループ等でご支援くださり、お名前がわからないかたもおられます。あわせて感謝申し上げます。これからも、お祈りご支援よろしくお願いたします。

<団体> 浅草聖ヨハネ教会 石橋聖トマス教会 伊豆聖マリア教会 市川聖マリア教会 一宮聖光教会 祈りの家教会 恵我之荘聖マタイ教会 大阪教区婦人会 大阪教区連合男子会 大阪城南キリスト教会男子会 大阪聖アンデレ教会 大阪聖パウロ教会男子会 大阪聖パウロ教会婦人会 大阪聖パウロ教会有志の会 大阪聖ヨハネ教会 小田原聖十字教会婦人会 柏聖アンデレ教会伝道所 釜石神愛教会 軽井沢ショー記念礼拝堂 川口基督教会 川口基督教会男子会 関東三教区生野委員会 京都教区宣教局社会部 京都教区婦人会 京都復活教会 草ヶ江幼稚園園児一同 神戸昇天教会 神戸聖ミカエル教会 堺聖テモテ教会 三光教会 三光塾 下鴨幼稚園 松蔭中学校・松蔭高等学校宗教部 諸聖徒幼稚園 新庄聖マルコ教会 婦人会 精神障害者地域生活支援センターすいすい 聖心幼稚園 聖ルカ教会 聖ルシヤ教会 第29回日韓の歴史を学ぶ会 高槻聖マリア教会 東光学園 西宮聖ペテロ教会 日本聖公会婦人会 大阪聖愛教会 東豊中聖ミカエル教会婦人会 日本聖公会北関東教区 福岡教会委の会(婦人会) 富山聖マリア教会 桃山基督教会 日本聖公会神戸教区婦人会 名古屋聖ヨハネ教会 池袋聖公会 東京聖テモテ教会奉仕会 東京聖マリア教会 初島聖十字教会 プール学院 プール学院中学校・プール学院高等学校 平安女学院大学キリスト教文化センター 平安女学院中学校・高等学校 宗教センター 松山聖ルカ幼稚園 宮崎聖三一教会 目白聖公会 桃山学院聖アンデレ礼拝堂 八木基督教会 横浜聖クリストファー教会 横浜山手聖公会 立教小学校立教女学院 立教女学院小学校児童一同 良善幼稚園 林間聖バルナバ教会

恵美子 国津進 久保道則 熊澤美華子 倉本和 栗山義信 黒崎光太郎 黒崎晋太郎 黒田浩子 玄月 河野裕道 越山健蔵 小杉尅次 後藤恵美子 小西正人 小林いつ子 小林克則 小林宏治 小林幸子 小林聡 小林史郎 小林満寿子 小林佳子 小堀孝子 小松淳子 小松ひとみ 小松二三子 小室一小山俊雄 近藤悠紀 齊藤祥子 齊藤壺 嵯峨崎順子 相楽弘子 桜井揚子 佐々木靖子 佐治孝典 佐谷和子 佐藤悦子 佐藤節子 佐藤千鶴子 佐波正夫 佐分利みどり 猿橋靖・正子 塩田純子 島田麗子 下条登代子 下條道子 笑福亭仁嬌 勝屋徹 白石敏子 白石美香 白倉一郎 城下彰 杉原達 杉本美津子 須佐美浩一 鈴木あや子 鈴木育三・恵美子 鈴木慰 鈴木眞喜子 鈴木靖夫 正義と平和協議会 聖バルナバ病院 瀬尾泰大 関口登代世 関本肇 瀬山義美 莊司弘之 空信一 多方清子 高田日出男 高津達夫・寿江 高橋幸子 高橋章介 高橋基子 高見澤國子 高宮建治 高本愛子 武市温子 竹田和子 竹田眞 竹中達吾 竹中眞美子 辰巳信義 田中慎治 田中恒久 田中宏 田中史 田辺美恵子 谷市三 谷富夫 谷井尚子 谷元正敏 近澤淑子 茶本博史 趙千恵 丁章 月橋みんね 筑田克夫 辻節子 辻本一馬 蔦村の子 寺村直子 当舎あずさ 藤間布美子 戸塚泰子 富谷晋 富満美佐子 豊川雅章 豊田英子 内藤昇 中和子 中井万三展 中川正信 中島千恵子 中西庄之助 中野香津子 長野加代子 中野三枝子 中原恵 中原康貴 中村大蔵 中山一郎 柳堀素雅子 難波南美子 西上由美 西川寿代 西臺宏 西村寿子 西元マサエ 丹羽美恵子 野田一道 野村潔 芳我秀一 橋本克也・玉枝 橋本宣子 橋本義彦 服部智子 濱生正直 濱田淳子 濱田高盛 早川善樹 林国男 林国秀 林知子 林寛子 榛木恵子 春名英夫 坂東長輝 久下克己 飛田雄一 日高和夫 日高八重子 平賀てる子 平野淳子 広瀬貴子 廣政博 廣政百々代 黄裕錫・金幸子 深田淳夫 吹留辰雄 福田光宏 福田稔 福永芽久実 藤木典子 藤崎とよ 藤谷正一 藤原紘子 古本純一郎 古谷利治 薫 堀田とし子 堀貴美子 堀武 堀江育夫 堀江富美 前川洋子 前島素子 前田忠男 前田都 前田容子 前田良彦・恂子 前原潔 政本真依 益海政一 俣野恵子 松居勲 松井新世 松浦順子 松本一郎 松本潤子 松本信行 松本文 真鍋倫子 三木靖一 三木メイ 水谷勝美 水谷博彦 三瀬敏夫 水口正樹 南康子 三村タミエ 三村信子 宮川八重子 三宅肇 宮崎光 宮脇博子 武藤六治 宗像和雄・宗像千代子 村上君子 村上喜代子 邑上亨 村上義夫 邨田志津子 茂木充 茂木恵 百井幸子 森紀旦 森美知 森中央 諸橋保夫 八尾恵三 安永和夫 矢萩修二 山上操 山口光 山口善彦 山崎ホシ子 山下恭 山根貞夫 山根博子・由香 山野上由紀子 山本顕子 山本眞・京子 山本由紀子 横内洋子 横川浩 吉川功・麗園子 吉田孝子 吉田常夫 吉田雄亮 米村照子 米村路三 米山勉 若井和子 和田智雄

<個人> 相川福江 相沢牧人 相原俊次 青柳美智子 秋山波子 秋山義孝 浅野芳彦 旭川洋子 東直子 東弘子 阿部雅良 尼子美喜 尼子ユリコ 有村一夫 井口論 池住圭 池本則子 石井英隆 石浦教良 石田浩子 石橋市子 泉迪子 井田泉 一場貴久江 一花恭子 伊藤美佐子 伊藤幸雄 稲原三千 井原洋子 今西益一 今村祥子 今村秀子 林芳子 巖篤子 岩垂悦子 植田哲子 上田憲明・上田亜樹子 植松從爾 植松誠 宇野徹 梅本百合子 浦川十三夫 江川みつえ 江野隆夫 遠藤恵子 遠藤雅己 呉寿恵 大賀健二 大方せつ 大川千萬 大久保佳彦・大倉一郎 大黒清一 大里鉄子 大嶋果織 太田淑子 太田美智子 太田善己 太田喜元 大田黒千穂子 大谷タカコ 大野高史・寿美 大野和香子 大野吾子 大橋襄 大橋博子 大橋良一 岡田まり子 緒方貴子 岡野峻 岡野俊夫 岡野利治・岡野敏子 岡本勝 小川昌之 興津健蔵 奥田哲夫 納トヨ 小野喬之 小野幸 垣内純子 藤山典仁 葛西良治 柏原美男 片岡光子 加藤道三 金木歌子 金子保志 金光秀晃 金宮星憲 上岡栄子 神谷尚孝 神山弘子 香山洋人 河崎望 姜富三 木川田一郎 菊地泰次 菊池緑 貴志真一 木田江悦子 北村眞紀子 北山和民 北山成子 衣笠奈良美 金秀吉 金必順 金興一 木村國臣 木村幸夫 国津

こひつじ保育園の卒園式にて



2004年3月25日 聖公会生野センターと建物を同じくするこひつじ乳児保育園の第12回目の卒園式が行われました。天候にも恵まれ たくさんの方に見守られるなか、18名全員が保育証書を手に入れました。子どもたちはおめかしし、嬉しいやら、照れくさいやら、緊張やら…。最後に卒園児みんなで歌った「思い出のアルバム」。今までの保育園生活を振り返り、保護者の方々のいろんな思いも感じられました。そんななか、卒園児の保護者の勤める大阪朝鮮歌舞団の方々が歌や踊り（写真）で卒園をお祝いしてくださいました。卒園児はもとより、在園児や職員までもがその華やかさに感激し、楽しい思い出ができました。（こひつじ乳児保育園 <http://www.kohitsuji-n.org>）

読者の声

西原さんの文章はいつも勇気づけられます。憲法・教育基本法等を変えて軍事国家に向かおうとする国。愛国心を説く政治家。国を愛する前に人を愛し、平和を愛する。（山口善彦）◆「あるハガキの問いかけ」のようなことはこのような運動をしている以上、当然、起こりうることだと思う。問題なのは、その背景を考え、少しでも多くの人の理解を得ることだと思う。この投書は、教会関係者なのかは知らないが、もしそうだとしたら大変残念なことだ。確かに、北朝鮮への非難記事がないのは、私も指摘したが、「全くない」のではなく「少ない」ことを指摘した、後段の「韓国へでも北朝鮮へでも～」の部分は無知では済まされないことだ。だが、残念ながら教会内では意外と、事

実誤認や無理解が少なくない。まずは教会内から教育が必要なのではないか（今西益一）◆明治以降だけでも、日清・日露・15年戦争と侵略の歴史です。今、また中東の石油利権のための軍隊を派遣します。国民が民主的に選挙によって選んだ議会が決めます。侵略やイラクへに行くことは「国益」です。悲しいかな、大部分の国民はそうです。他国への侵略は選挙によってしか止められないと思います。（鈴木真喜子）◆あるハガキの問いかけ編集委員会・井田先生のお考えが心の中に入ってきました。まことに筋道だった見解と感服しつつ読みました。大垣聖ペテロ教会では「平和への祈り」と「拉致被害者のための祈り」を隔週交互に毎主日お祈りしています（松井勲）

聖公会生野センターへのご支援をお願いします

◇後援会費

年額 1口 3,000円（個人） 1口 10,000円（団体）

・郵便振込00960-0-133429 「聖公会生野センター後援会」

◇自由献金・クリスマス献金

・郵便振込 00910-1-321780 「聖公会生野センター」

・銀行振込 U F J 銀行 東大阪支店

普通預金 3711311 「聖公会生野センター」

発行所：聖公会生野センター

〒544-0003

大阪市生野区小路東1-17-28

TEL06-6754-4356/FAX06-6754-4357

E-mail: ikuno@nssk.org

<http://www.nssk.org/province/ikuno>

発行人：齊 藤 壹

編集人：大 橋 襄

ウルリムは古紙100%の再生紙を使用しています。